

協働評価シート

事業名		新居浜市歌普及促進事業	実施年度	平成25年度
部 局		企画部	課 所	秘書広報課
団体等の名称		新居浜少年少女合唱団		
評価項目			評価者	評価
相互理解	それぞれの特性や立場を理解し合えたか	お互いの特性や立場を十分に認識、尊重して、事業を実施することができたかどうかを評価。	団体等	A
			市	A
対等	双方が対等の立場に立っていたか	対等な立場で協議、事業実施ができたかどうかを評価。	団体等	A
			市	A
自主	市民の自主的な活動が尊重されたか	自主的活動を十分に活かして事業効果を増加させたかどうかを評価。	団体等	B
			市	A
自立	市民の自立化を阻害しなかったか	依存体質が助長されるなど、市民の自立化が阻害されることがなかったかどうかを評価。(新たな自発的事業展開につながり自立化が進んだ場合はA評価)	団体等	B
			市	A
目的共有	双方が協働事業の目的を共有できたか	協働事業の目的は十分に共有して事業実施ができたかどうかを評価。	団体等	A
			市	A
情報共有	双方がお互いの情報を共有できたか	情報を十分に共有しながら事業実施ができたかどうかを評価。	団体等	A
			市	A
公開	双方の関係を十分に公開できたか	全て公開され、利便性も高いかどうかを評価。	団体等	A
			市	A
「相乗効果」が発揮され、独自で行うよりも効果的と認められるか		「相乗効果」が十分に発揮され、協働が効果的と認められるかどうかを評価。	団体等	A
			市	A
市民の関心や参画意欲を引き出す事業展開がされたか		十分に市民の関心や参画意欲を引き出す事業展開がされたかどうかを評価。	団体等	B
			市	B

事業の目的、目標が達成されたか、どのような成果があったか、具体的な改善点等があれば記載（自由記述）

団体等	<p>今回の市歌普及促進のため、まず別子銅山記念図書館に保存されていた市歌の原譜を取り寄せたところ、前奏がたいへん短く、一般の市民が歌うのには難しいと考え、新しく編曲をお願いしました。さらに小中高校生や合唱団のことも考え、斉唱だけでなく2部合唱にもしました。当団員への指導ができ、録音し、CDは予定どおり1,000枚作りましたが、できあがりが遅くなったことで、当団の定期演奏会や秋の芸術祭では全会衆で歌いましたが、当初計画していた一般市民への講習会は残念ながら開けませんでした。当団では年度を越えてこれからも講習会や市内の各種イベントで歌い、市歌の普及に努力していくつもりです。</p>
市	<p>完成したCDは市内全小中学校、高校、保育園（私立・公立）、公民館等公共施設、関係団体に配布した。また、市役所内では昼休み時間に館内放送を開始し、市職員の外、訪れた市民等にも浸透を図った。</p>
相互協議 結 果	<p>今後も制作したCDを使用し、市の各種イベントで市歌を流したり、市役所内でも放送をしたりするほか、同合唱団による各種団体への市歌講習会や学校での指導活動など、両者が協働して普及活動を行うことにより、さらに新居浜市歌が市民に浸透し、次世代に歌い継がれていくことが期待できる。</p>